

いばらき



県シ連だより

IBARAKI Prefecture Silver Human Resources Center Federation

令和5年
1月
発行



「菊と傘と青空と」
(撮影場所：笠間稻荷神社境内)

撮影／公益社団法人
笠間市シルバー人材センター
岩田 孝司さん

特集

シルバー事業に役立つ “老年学”のススメ



目次

連合会会長挨拶	2
茨城県知事挨拶・茨城労働局長挨拶	3
特集「シルバー事業に役立つ“老年学”のススメ」	4
センター訪問	8
就業活動レポート	10
会員の声	12
わくわくシルバーフェスティバル	13
県シ連で開催した主な事業	14
安全就業推進について	15
配分金収入に対する所得税の取り扱いについて	16

年頭のあいさつ



公益社団法人 茨城県シルバー人材センター連合会

会長 綿拔 剛

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、ご家族お揃いで健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、昨年中は当連合会の業務運営に対しまして、多岐に亘るご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症の拡大が続く年となり、経済社会全般への影響がなかなか拭い去れない状況となっております。しかしながら、様々な対策が講じられるとともに、一人ひとりが感染防止に努めたこともあり、県内景気は、資源高の影響を受けつつも感染抑制と経済活動の両立が進む下で基調としては持ち直しているようです。

このような中、本県シルバー事業は、契約額はやや持ち直しているものの会員数は下げ止まらず厳しい状況が続いており、当面、これをコロナ前の水準に回復させることを目指して全力で取り組むことが必要です。特に、会員拡大への取組は喫緊の課題であり、中でも女性会員の拡大と活躍を進めていくことは大変重要です。このため、昨年は県連合会の女性役員並びにブロック毎のシルバー人材センターの女性役員によるプロジェクトチームを設け、女性会員拡大に向けた取組を一層積極的に進めることにしたところです。

また今年10月からはインボイス制度の施行が予定されており、シルバー人材センターの運営にも大きな影響が予想されます。各シルバー人材センターと連携の下、引き続き対応準備を進めてまいります。

今、我が国は65歳以上が総人口の29.1%（令和4年推計）を占め、総人口が減少する中で、高齢者人口は過去最多となっております。このような超高齢社会を支える組織として、シルバー人材センターの役割は一層大きなものとなってきていることを強く認識し、今後とも地域社会の福祉と活性化に貢献する、魅力あるシルバー人材センターとして充実発展しますよう努めてまいりまいる所存でございますので、引き続きご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

結びに、各シルバー人材センターの益々の発展と、会員、役職員の皆様方におかれましては健康に十分留意され、安全で明るい年になりますよう心から祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

公益社団法人 茨城県シルバー人材センター連合会 役員名簿

任期：令和4年6月17日から令和6年度定時総会終了時まで



会 長	綿拔 剛	(公社)茨城県シルバー人材センター連合会
副 会 長	加倉井 健一	(公社)水戸市シルバー人材センター
副 会 長	塚本 将男	(公社)龍ヶ崎市シルバー人材センター
常務理事	長山 優	(公社)茨城県シルバー人材センター連合会
理 事	石田 正雄	(公社)行方市シルバー人材センター
理 事	江連 史郎	(公社)結城市シルバー人材センター
理 事	鈴木 博之	(公社)大洗町シルバー人材センター
理 事	前田 浩	(公社)土浦市シルバー人材センター
理 事	今橋 徹也	(公社)日立市シルバー人材センター
理 事	針尾 孝子	(公社)鹿嶋市シルバー人材センター
理 事	松本 康雄	(公社)阿見町シルバー人材センター
理 事	長 行雄	(公社)常総市シルバー人材センター
理 事	大山百合子	(公社)東海村シルバー人材センター
監 事	井上 雅裕	公認会計士・税理士
監 事	根笹 博	(公社)ひたちなか市シルバー人材センター

新年のごあいさつ



茨城県知事

大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

シルバー人材センターの皆様方におかれましては、日頃から高齢者の就業機会の確保・提供にご尽力いただいておりますことに、心より敬意を表します。

さて、本県の高齢化率は3割を超え、本格的な超高齢社会を迎えております。生産年齢人口が減少する中、働く意欲のある高齢者の皆様に、これまでの知識や経験を活かしながらご活躍いただくことは大変重要であり、高齢者の就業機会を確保し、生涯現役で社会参加の促進を図るシルバー人材センターへの期待も益々大きくなってきております。

県といたしましても、こうした社会の変化に素早く対応するため、貴連合会をはじめとする関係機関と連携し、各地域における高齢者の就業ニーズ等が見込まれる業務について派遣時間を拡大するとともに、シルバー人材センターの活動を周知・広報するなど、高齢者の就業機会の確保に努めております。こうした取組を通じ、引き続き、皆様方とともに、「県民幸福度No.1」の実現に挑戦してまいりたいと考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

結びに、公益社団法人茨城県シルバー人材センター連合会の益々のご発展と、皆様にとりまして、本年が実り多き素晴らしい一年となりますことをお祈りしまして、新年のあいさつといたします。



厚生労働省茨城労働局長

下角 圭司

新年あけましておめでとうございます。

シルバー人材センターの会員並びに関係者の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から茨城労働局の業務運営につきまして、ご理解とご協力をいただくとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業活動が制限されるなか、高年齢者の就業促進に向けた事業にお取り組みいただき、心より感謝申し上げます。

さて、少子高齢化の急速な進展に伴う労働力人口の減少から、我が国の経済社会の活力を維持・向上させるためには、働く意欲のある高年齢者が年齢にかかわらず、その能力・経験を十分に発揮し、生涯現役として活躍し続けられる就業環境の整備を図っていくことが重要となってまいります。

シルバー人材センター事業は、地域高年齢者の多様な就業機会を確保し高年齢者が生涯現役で社会参加していくための支援、さらには介護、育児等の現役世代を支える分野及びサービス業等の人手不足分野において、高年齢者が活躍できる環境を整えるという点から、今後、益々重要な役割を担われるものと確信しております。

茨城労働局といたしましても、シルバー人材センターの皆様と連携し、高年齢者の活躍の場を広げていく所存でおりますので、今後とも変わらぬお力添えをいただけますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、シルバー人材センターの益々のご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。

心も身体も健康に・・・「老年学」を知ること、 より楽しく・より長くシルバー人材センターで活動しませんか

急速な高齢化が進み、65歳以上の高齢者は人口の約3割を占めています。そのような中で2022年版高齢社会白書では、65歳以上の2割が「生きがいを感じていない」との調査結果が示されています。一方で、収入を伴う仕事をしている人や社会活動に参加した人の方が、生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合が高くなっています。まさしく、シルバー人材センターでの活動が、高齢者の生きがいづくりに大変役立っていると言えるのではないでしょうか。

そこで、いつまでも心も身体も健康に過ごすために、今回の特集では公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団研究部長 石橋先生に、「老年学」について教えていただくことにしました。

特集 シルバー事業に役立つ “老年学”のススメ

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長 石橋 智昭

《プロフィール》

千葉大学大学院修了後、亀田総合病院、慶應義塾大学医学部を経て、現在ダイヤ高齢社会研究財団の研究部長。専門は医療介護の質の評価（医学博士）現在、慶應義塾大学・東邦大学の非常勤講師のほか（公社）全国シルバー人材センター事業協会の「安全就業優秀・優良シルバー人材センター等選定委員」を兼任。

◆ 新しい学問としての“老年学”（ジェロントロジー）

老年学は、医学・心理学・社会学など複数の領域からなる新しい学問で、加齢変化の科学的解明と高齢社会の問題解決を目的としています。その英名は、ギリシャ語の老人を表すジェロン（geron）と学問を表すオロジー（ology）を組み合わせた造語からジェロントロジーと呼ばれています。

私も所属する日本応用老年学会では、老年学の正しい知識を一般社会に普及するために『ジェロントロジー検定』を行っています。その対象は、高齢社会に関係するさまざまな組織・団体に活動する方々や高齢者ご自身です。東京や大阪で試験が行われ、これまでに1万人近い方が合格して「ジェロントロジー・コンシェルジュ」の認定を受けています。

私は、こうした老年学の正しい知識をシルバー人材センターの役職員の皆様にご身に付けていただきたいと思います。全国での講演の機会にご紹介しています。本稿では、講演でお話ししている内容から、いくつかを紹介していきましょう。



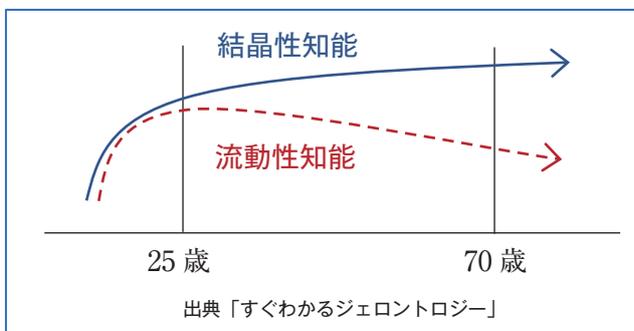
日本応用老年学会編・
ジェロントロジー検定公式テキスト
「すぐわかるジェロントロジー」

◆ 老年期にも伸び続ける知能がある

人間の知能は、一般的には脳の成長とともに発達し、青年期以降は加齢とともに低下すると言われています。確かに、時間内の組立作業や車の運転などの動作的な反応や新しい環境に適応する「流動性知能」は青年期以降に徐々に低下することが知られています。

一方、言葉を使った論理的な思考や経験や学習から問題に対処する知恵を育てる能力である「結晶性知能」は、老年期まで伸び続けるとされています。小説家や作曲家が晩年に最高傑作を創作する例などがこれに当てはまるでしょう。

もちろん能力の変化には大きな個人差が生じます。自分の趣味や仕事に役立つ知識をさらに掘り下げたり、新しいことへの興味を広げたりして好奇心旺盛に過ごすことが知能を保っていくためにも、良いとされています。



◆ 中年期とは反転する？ 高齢期の健康づくり

健康づくりのポイントは年齢とともに変化します。中年期までは、「生活習慣病の予防」が中心ですが、70歳代以降の高齢期では「老化予防＝機能的健康の維持」が中心となります。特に低栄養により体がやせていくことが要介護の大きなリスクになるため、高齢期に入ったらメタボ対策からたんぱく質を意識的に増やす対策へと大きく転換させる必要があります。

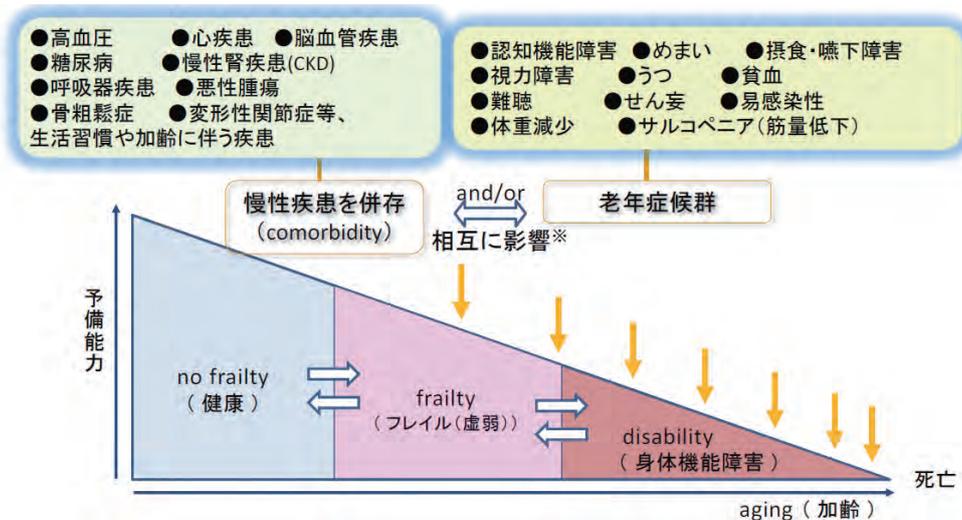
	中 年 期	高 齢 期
目 標	生活習慣病の予防	老化予防 = 機能的健康の維持
注目課題	メタボリックシンドローム (肥満・高血圧・糖尿病・脂質異常など)	フレイル
ポイント	食事 とりすぎに注意、野菜はしっかりと	不足に注意、肉・魚・卵はしっかりと
	運動 エネルギーを消費（有酸素運動）	筋力、足腰をしっかりと維持（筋トレ）
	嗜好品 タバコは×、お酒は適量	タバコは×、お酒は適量
	睡眠 十分な睡眠を	昼夜のリズムを整え、まとまった睡眠を
	社会 働き過ぎの防止やストレスの解消	積極的に社会参加を

出典：「すぐわかるジェロントロジー」

◆ 知っておこう “フレイル” とその予防

高齢期には骨や筋肉が弱くなることや、認知機能が低下することなどが複合的に生じる「老年症候群」が見られはじめます。これに、慢性疾患の影響も加わり、心身の脆弱化が進み、健康な状態から要介護状態に近づいた状態を「フレイル (Frailty)」と呼びます。

フレイルの判定方法はいくつかありますが、①体重減少 (半年で2～3 kg)・②疲労感が続く・③活動量の減少・④筋力の低下・⑤歩行速度の低下などが測定されています。重要なことは、「フレイル」に該当したとしても、早期発見と適切な対応 (生活の見直し) が図られれば、「健康」な状態へ改善することが可能であるという点です。これについては、会員の健康管理をどう進めるかと合わせて後述します。

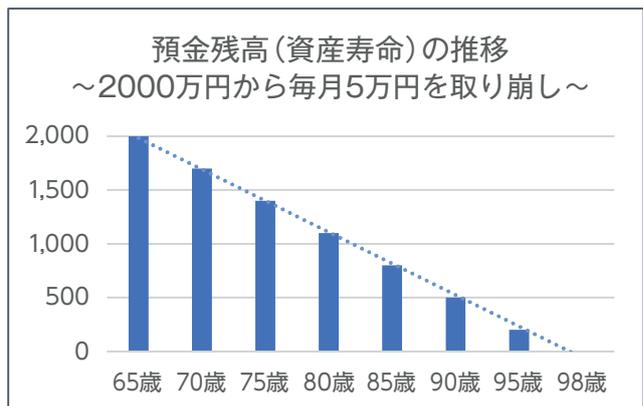


出典：厚生労働省「高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン」

◆ 人生100年時代と資産寿命

今後も寿命は延び続け、先進国では100歳以上まで生きる人が半数に達するとの予測があります。これまで経験のない新しい長寿時代を迎えるにあたり浮上してきたのが、長い老後の生活を営んでいくための生活資金の問題です。老後生活の資金のうち、年金等でまかなえない不足分は貯蓄等から切り崩す必要があり、政府統計では月5万円程度 (他には13万円の推計も) と報告しています。貯蓄等の資産が尽きるまでの期間を表す用語が「資産寿命」で、右図では2000万円の貯蓄が98歳で底をつきます。

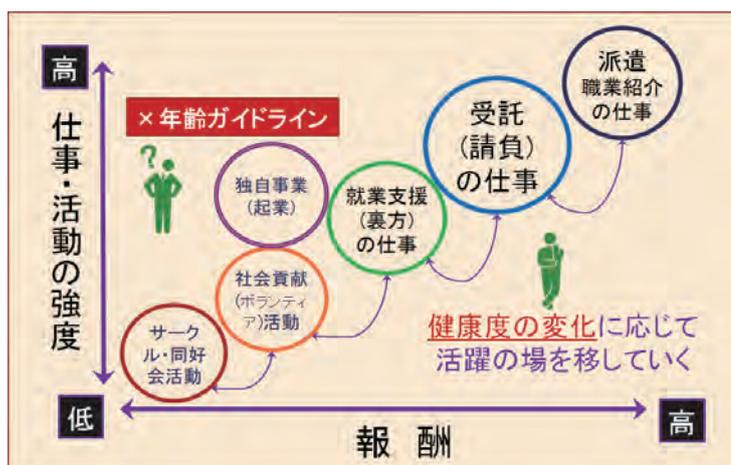
資産寿命への不安を解消する対策として期待されているのが稼働所得です。シルバー人材センター会員の平均月収は約3万円で、毎月の不足額には足りないものの、資産寿命の延命には大きなインパクトがあります。単純計算では、このペースで10年間就業すると約6年 (360万円分) の延命効果があります。



◆健康度の変化に応じて活躍の場を少しずつ変えていく

私たちの追跡研究では、10年間在籍していた会員のほとんどがずっと同じ仕事を継続していました。このことは、年を重ねて体力が低下しても別の仕事に就く人は少なく、「いま担当している仕事を続けられなくなった時が退会」という意識に結びついていることを予測させます。会員には、ぜひ複数の仕事や活動を並行して行う“複線的”な活動をすすめていきましょう。そのときの自分の健康状態や、生活スタイルにあったものをメインの活動として選択し、それ以外は「時々顔を出す」程度でも良いと思います。

シルバー人材センターでは、1つのコミュニティのなかで多様な活躍の機会が用意されています。たとえば、一括りに就業といっても、作業による身体的負担のレベルもさまざまで、仕事の内容や働き方の工夫によって調整することができます。無理なく、長く、活動を継続することを目指して、会員が（年齢ではなく）その健康度の変化に応じて活躍の場を変えていきやすい環境を作っていくことが求められます。



◆シルバー事業の課題は会員の健康状態の把握

健康度の変化は自身で何となく感じていても、正確に知ることは簡単ではありません。多くのセンターでは、市区町村の定期健康診断の受診を会員に勧めており、これは病気の早期発見にも有効です。ただし、体力チェックを含む心身の機能状態については、入会時の申告（手足の機能・持病の有無・血圧・めまいなど）1回のみというセンターが多いようです。

今後は、会員の更新手続きの際に定期的な健康アンケートを実施する等の取組も必要でしょう。その際には、先に紹介した高齢期に加齢に伴い生じる「フレイル」状態の把握を意識しましょう。また、定時総会や安全就業大会の機会に、会員同士のフレイルチェックを実施したり、地域の保健師等からフレイル予防の講演をお願いしたりなど、知識の普及を図りましょう。

項目	頻度	目的	対策例
定期健康診断	年1回	病気の早期発見、予防	会員に健診の受診を勧奨
フレイルチェック	半年～1年	生活機能の低下を把握	これから重点的に取り組み
就業前の確認	毎回	その日の体調の確認	センター独自でチェックを実施

さらに、会員が健康に不安を感じた際に、気軽に相談できる窓口を用意しておく必要があります。この時、「正直に相談したら、自分の仕事を取り上げられてしまう」という不安を持つ人もいます。断りなく相談内容が他の人に知られることがないこと、代替の仕事や他の活動があることを説明した上で、話を聞くことも大切です。

センター訪問

「いきいきサロンひまわり」で独自の事業を展開

公益社団法人 鹿嶋市シルバー人材センター

- 住所 〒314-0012 鹿嶋市大字平井1350-45
鹿嶋市総合福祉センター内
- TEL 0299-83-5577 FAX 0299-83-5574
- E-mail kashima@sjc.ne.jp
- 業務時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15
- いきいきサロンひまわり
営業時間 9:30～15:00 水・日定休
- お好み焼きひまわり本舗
営業時間 10:00～16:00 水定休
(鹿嶋市宮中1-4-13)



左から 佐藤さん、小野さん

鹿嶋市シルバー人材センターの会員数は339名。自転車などのリサイクル事業や花苗の販売、また夏休み子ども教室など様々な事業を展開しています。その中でも独自性を発揮しているのが、平成27年度から行っている「いきいきサロンひまわり」の運営です。

いきいきサロンひまわりは、鹿嶋神宮の参道近くにある商店街の空き店舗を利用した、趣味や文化活動などを推進するスペース。高齢者の生きがいづくりや居場所づくりに役立つほか、会員手づくりの手芸品や野菜の販売などを行うことで、子育て世代との交流促進や商店街の活性化を目的としています。

しかし、運営するには家賃や光熱費などの費用がかかることも事実。そこで考案したのが、見た目はたい焼きで中身はお好み焼きという「お好み焼き」の販売です。内野局長の発案でスタートし、キャベツやベーコンを挟んだたい焼きや、パリッと美味しいウインナーを挟んだたい焼きなど数多くの商品を開発。その美味しさが口コミやSNSで広がり、地元の方々や鹿嶋神宮の参拝客などが訪れるようになりました。

サロン内では様々な講座

や教室が開かれています。スポーツ吹矢もその一つ。スポーツ吹矢とは腹式呼吸での健康法と日本古来の吹矢を融合させた競技のこと。年齢や性別、体力などによる格差が少なく誰もが対等に競うことができるスポーツとして、障害者スポーツとしても注目されています。

日本ウエルネス吹矢協会の公認指導員でサロンで吹矢を教えている小野緑さんは「吹矢は健康増進はもちろん、集中力の向上やストレス解消といった効果も期待できます。激しい運動ではなく深呼吸ができれば誰でも始められるスポーツなので、シルバーの方にも楽しんでいただきたいですね。吹矢の楽しさを共有する仲間が増えると、人生が豊かになりますよ」と、吹矢の効果を語ってくれました。また、サロンでの吹矢教室に通う佐藤千恵子さんは「吹矢を始めてから風邪をひかなくなりましたし、冷え性も改善されました。得点を競い合うので、次はもっと頑張ろうと向上心が湧き、中心に当たったときの喜びは格別です。個人競技なのでマイペースで取り組めるのも魅力の一つですね」と笑顔で話してくれました。

サロンでは新しい取り組みとして惣菜の販売も始めました。現在は「ひじきの煮付」と「ピーマンのピリ辛惣菜」の2種類です。惣菜の開発を手掛けた木滝ミトコさんは「管理栄養士の方にご協力頂きながら何度も試作を繰り返し、やっと商品化に漕ぎ着けました。これからは、会員の方が育てた野菜を使い旬を取り入れた惣菜を作っていきたいと思います」と抱負を語っていました。



子どもたちの安全と 健やかな成長を守る

公益社団法人 つくばみらい市シルバー人材センター

- 住所 〒300-2422 つくばみらい市古川1015-1
- TEL 0297-25-2102 FAX 0297-25-2106
- E-mail tsukubamirai-sc@lagoon.ocn.ne.jp
- 業務時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15
- 最寄駅 つくばエクスプレスみらい平駅より車で10分

つくばみらい市は茨城県の南西部に位置する、人口50,000人を超える都市。都心から40km圏と東京への通勤が可能なため、首都圏のベッドタウンとしても発展しています。市内には鬼怒川、小貝川の2つの河川が流れているため広大な水田地帯が広がり、丘陵部には秋葉原とつくば市を結ぶ

「つくばエクスプレス」が開業。みらい平駅から秋葉原駅まで最速で40分、つくば駅までは12分で結ばれています。

つくばみらい市シルバー人材センターの会員数は男性が277名、女性が115名、合計で392名（令和4年10月末現在）。就業率は66.8%で、発注の内容は公共が35%、民間が65%となっています。

依頼内容は公共施設の管理業務・清掃作業、スーパーなどの品出し、稲の苗床を作る手伝いなどを派遣業務で行っています。民間では剪定作業・除草作業が多くなっていますが、高齢化が進み会員の確保が課題です。また、市内に放置された空き家などの適正な管理推進に関する協定をつくばみらい市と締結。遠方に暮らしているなどの理由で空き家を管理できない方に対し、有償で家



の見守り・剪定・草刈りなどを行っています。安全対策としては、剪定・除草作業員の方々に蜂刺され応急処置用具の貸与を実施するほか、各作業現場を対象に予防周知を推進・指導しています。

つくばみらい市シルバー人材センターは派遣事業として、子どもたちの健やかな成長に貢献する事業に力を入れています。その一つが、小学校などが運行する送迎バスへの添乗業務です。近年、少子化による小学校の統合が相次ぎ、家から学校までの距離が遠くなった児童は送迎バスで通学しています。バスへの乗り降りはもちろん、移動中の児童たちの様子にも気を配り安全を確保することが主な業務内容です。

もう一つが、小学校に設けられた特別支援学級への特別支援教育支援員の派遣です。特別支援教育支援員とは、特別な支援が必要な児童生徒に対し、さまざまなサポートを行うスタッフのこと。集団生活に馴染めなかったり、普段の授業についていけない子どもたちと向き合い、マンツーマンで子どもたちの見守りや日常生活の手助けなどを行います。忍耐力と集中力、そして体力も必要とする大変な仕事ですが、親身になって子どもたちとふれあい、信頼を得られたときの喜びは各別だと支援員は語っています。こうした子どもたちとのふれあいを軸にした活動は「孫と接しているようで楽しい」と会員にも好評です。子どもたちの健全な育成は、地域の未来に大きく貢献する事業。会員たちの大きなやりがいにもつながっています。



就業活動レポート

スズメバチの巣を駆除し 市民の安全を守る

(害虫駆除事業)

公益社団法人 常陸大宮市シルバー人材センター



常陸大宮市シルバー人材センターが、いま最も力を入れている事業はスズメバチの巣の駆除です。これまでもスズメバチの巣を駆除して欲しいという依頼は受け付けてきましたが、令和4年度常陸大宮市では、スズメバチの巣の駆除に係る補助制度を創設、スズメバチの巣の駆除を行う指定業者として、常陸大宮市シルバー人材センターを指定。駆除できた場合、個人負担以外については、市からの補助金を代理受領し事業を実施しています。



春には酒徳利を逆さにしたような小さな巣を作りますが、6月から7月には働き蜂が増えはじめ、巣はソフトボール大の球状になります。そして8月から9月頃にはさらにスズメバチの活動が活発化。大きさもバスケットボール大にまでに大きく成長します。また、この時期には新しい女王蜂が生まれるため、働き蜂が巣に対して敏感になり巣の周辺は非常に危険です。巣の駆除の依頼はその時期に増えるため、駆除する会員の安全を確保することが重要になります。

まず対策しなければならないのが、蜂などに刺されると発症する危険性のあるアナフィラキシーショック。症状が重くなると、最悪の場合、死亡することもあるため抗体検査を行い、耐性のある7人の会員が作業に当たっています。もちろん防護服を着ての作業になりますが、万が一刺された場合を想定し、毒液や毒針を吸い出す吸引機インセクトポイズンリムーバーを貸与。医師の手当を受け

るまでの応急処置ができるよう、作業するときには常に携帯していただいています。

安全を期するため、作業条件も限定しています。高さが概ね3メートルを超える場所に営巣している場合や、壁などの構造物の取り壊しが必要な場合も民間の専門業者への依頼をお願いしています。高所での作業は脚立を踏み外した場合の転落など予期せぬ危険が想定されるため、最低でも2人で作業に当たることが原則です。また、近年厳しさを増す夏の暑さも大敵です。防護服を着用するため、熱中症などへの注意も必要になります。

常陸大宮市シルバー人材センターの海老根局長は、「今年度は、200件を超える駆除を行いました。だいたい7月から9月までに依頼が集中するので、1日に4、5件扱うこともあります。危険を伴う仕事ですが、市民の方に感謝されることは、会員の方のやりがいにもつながります。何より、スズメバチの被害を少しでも減らし、市民の皆様が安全で安心な日常を送ってくださることが私たちの願いでもあります」と市民の安全を守る取り組みの意義を話していました。



玉造公民館の運営を すべて任された 6人の女性会員たち (施設管理事業)

公益社団法人 行方市シルバー人材センター

行方市シルバー人材センターが行う取組は、玉造公民館の運営です。この事業の大きな特徴は、同公民館には市の職員が一人も常勤していないということ。つまり、清掃や花壇の手入れなどの環境整備はもちろん、利用者への対応、講座や教室

のブッキングなどすべてを任されているのです。通常は行政や民間から依頼された業務を行うのがシルバー人材センターの仕事ですが、ここでは運営に関する企画の立案から実施計

画、そして作業工程の管理まで任されているのです。このプロジェクトに携っているのは6人の女性スタッフ。全員が行方市シルバー人材センターの会員です。

「現在の体制を整えるには、それなりに時間がかかりました」そう語るのは、6人のリーダー的存在である新堀文江さん。新堀さんは元行方市職員で、女性で初めて課長職に抜擢され、男女雇用機会均等法を浸透させるための社会環境構築や法の周知に貢献してきました。「地域活性化のために何か自分にできないかと考えたときに、玉造公民館を市民が集う地域の核となる存在にできないかと思ったんです。そこで7年前に玉造公民館活性化協議会を立ち上げ、公民館を地域で運営することを要望してきました」新堀さん自ら市長に働きかけますが、個人の力ではどうにもなりません。



そこで着目したのが、行政ともつながりのあるシルバー人材センターでした。「シルバー人材センターを巻き込むことで、公民館の再生を実現することができました。私たちの活動に、とても理解のある市長だったこともラッキーでしたね。でも、そこに至るまでには私だけではなく、一緒に活動してきた仲間たちの存在が大きかったのも事実です」アイデアの発端は、かつての勉強会で生まれていました。当時からの仲間の飯田光子さんは、絵手紙の講師として、長年、公民館で指導をしてきました。「みんなが忙しい時代になって、公民館を通じた地域の交流まで失われつつありました。それを何とかしたかったんです」と当時を振り返ります。

現在、年間を通して実施しているのが、エントランスホールのディスプレイ。ハローウィン、クリスマス、お正月など季節にあった飾り付けが、訪れる人を出迎えています。新堀さんは「幼稚園児が作った作品も飾っているんですよ。園児の作品が展示されるとご両親や祖父母の方など、たくさんの方が公民館に足を運んでくれるので公民館の活性化にもつながっています」と笑顔で話してくれました。



仕事は日々の生活にアクセントを付けてくれます！

公益社団法人 高萩市シルバー人材センター

おちあい たかゆき
落合 孝之さん (69歳)



主に、どのようなお仕事をされていますか？

高萩市総合福祉センター業務を行っています。一般市民に開放される土曜と日曜は職員の方の休日になっているので、開館閉館の準備などが主な業務内容です。

土・日にはイベントなども開催されますよね。

ここには約300人程度収容できる多目的ホールがあるので、そのステージ運営も仕事の一つです。照明を使ってスポットライトを当てたり、場面に応じて音楽を流す音響も担当しています。もちろん、最初は何もできませんでしたが経験者に付いて研修を行い、いまは一通りこなせるようになりました。でも、戦没者追悼式など大切なイベントも行われるので、毎回プレッシャーを感じますね。手順を間違えると大変なことになりますから、失敗は許されません。

仕事をする上で

心掛けていることはありますか？

市民の皆様には総合福祉センターを安心してご利用いただけるよう、確実に丁寧な仕事をする事です。そのために救急救命士の講習を受けたりしています。この施設にはご高齢の方も多くいらっしゃいますので、利用者が体調不良のときなども、あわてずに対応ができるよう心掛けています。

最後にメッセージをお願いします。

退職後、何もしていないと毎日が日曜日のような生活になってしまいます。月に一回、市内の高齢者を対象にお弁当を届ける配食サービスも実施しているので、週に一回のシルバー業務、他にボランティアで月に一回の配食サービスと生活にアクセントをつけることができます。シルバー人材センターでの活動は日常のメリハリになると実感しています。

誰かに喜んでもらえることが一番のやりがいです！

公益社団法人 常総市シルバー人材センター

やなおか ふさお
柳岡 房雄さん (75歳)



どのようなお仕事されていますか？

現在の仕事内容は、障子や襖、網戸の張替えなどです。専門的な知識と技術が必要な仕事ですが、以前、住まいのリフォームを扱う職場に勤めていたので、そのときに培ったノウハウを現在の仕事に活かしています。

素人には難しい仕事ですね。

技術を習得するまで、障子なら半年、襖は3年程度かかると思います。シルバー人材センターに入会して張替えの技術を習得したい方には私が指導していますが、できる方が少なくなっているのは事実ですね。でも、それだけに需要が多いことも確かです。夏場は比較的暇ですが、10月から12月にかけては仕事の依頼が多く、忙しく働いています。

印象に残っている出来事がありますか？

平成27年に起きた鬼怒川の氾濫です。市内の3分の1が浸水した大規模な水害で、多くの家が被害を受けました。もちろん障子や襖も使い物にならなくなってしまったので、1日に数十枚もの張り替え依頼が殺到しました。当時、作業できるのは私一人だったので、できる範囲で一生懸命に働いたことを覚えています。9月に起きた水害なので、きれいな家で年を越したいと思う皆さんの思いを考えて、がんばりましたね。

最後にメッセージをお願いします。

仕事をしていると、毎日、目標を持って生活することができます。また、どんな仕事でも、必ず喜んでくれる方がいらっしゃいます。家で時間を持て余している方は、ぜひ入会してみてください。



豊富な経験・知識・技能を地域や社会のために！

シルバーフェスティバル

普及啓発促進月間



県内のシルバー人材センターでは、10・11月の普及啓発促進月間に各地域のイベントに参加して、活動内容の紹介や、会員の作品・地元特産品の販売等を行いました。一昨年来、新型コロナウイルス感染症の影響で各種イベントが中止となっていました。今年には多くのイベントが開催されました。

大洗町 SC (10/1)

大洗健康・長寿まつり



ホール内のブースで、センター会員チラシ、ポケットティッシュ、さつまいも2、3本、連合会配布のウェットティッシュを袋詰めし、来場者に配布。

水戸市 SC (10/15)

JR水戸駅 北口、南口



ビブス着用、のぼり旗掲揚、配布物300個配布

結城市 SC (10/29)

祭りゆうき 2022



チラシ、ウェットティッシュ、ティッシュの配布。入会相談窓口設置。独自事業生産品(キュウイ、落花生、手打ちそば)

常総市 SC (11/6)

第30回常総ふるさと祭り



チラシ、パンフレットの配布、豚汁、コーヒー販売

県シ連で開催した主な事業

◆ 令和4年度役職員研修会

令和4年9月26日「令和4年度 役職員研修会を開催しました。113名の皆様にご参加いただき、公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団研究部長 石橋智昭氏、公益社団法人草加市シルバー人材センター事務局長 岡田卓也氏を講師にお迎えしてそれぞれ「老年学」と「会員拡大」をテーマに講演が行われました。



石橋 智昭氏

「シルバー事業に役立つ“老年学のススメ”」
新しい学問領域である老年学について講演いただきました。
(※特集記事を執筆いただいています。)



岡田 卓也氏

「会員拡大の推進事例について」
会員数が減少傾向にある中、女性会員獲得の成功事例と組織力の強化について講演いただきました。

◆ 令和4年度女性役員による会員拡大推進研修会

令和4年11月8日「令和4年度 女性役員による会員拡大推進研修会」を開催しました。81名の皆様にご参加いただき公益社団法人流山市シルバー人材センター 常務理事 海老原廣雄氏を講師にお迎えし、女性会員の活躍について講演が行われました。



また、流山市シルバー人材センター女性部会長、副部会長さんと、県連合会並びに県内シルバー人材センターの女性役員から成る「会員拡大推進プロジェクトチームメンバー」による意見交換等が行われました。

後半では、茨城県福祉部長寿福祉課（認知症対策担当）主査綿引美保子氏を講師にお迎えし、健康に活動するための「フレイル予防」について講演が行われました。

安全就業推進について

◆ 令和4年度 安全就業推進大会開催

令和4年7月7日（木）、セキショウ・ウェルビーイング福祉会館（茨城県総合福祉会館）コミュニティホールにおいて、令和4年度 安全就業推進大会を開催いたしました。今大会により、就業中の事故を無くし、健康管理に取り組む重要性を改めて認識し、安全・安心なシルバー事業の展開につながることを期待いたします。



綿抜 剛会長あいさつ



講演
「シルバー就業の安全基準と労働安全衛生法」
安全教育企画 畑 英志 氏



安全就業優秀賞 龍ケ崎市シルバー人材センター



安全就業優良賞 かすみがうら市シルバー人材センター

◆ 安全パトロールの実施

会員の皆様が健康で安全第一で就業できるよう意識を高めてもらうために、『安全パトロール』を実施しています。

日時	実施センター
令和4年10月21日(金) 10:00から	守谷市シルバー人材センター／つくばみらい市シルバー人材センター
令和4年10月28日(金) 10:00から	神栖市シルバー人材センター／鹿嶋市シルバー人材センター
令和4年11月10日(木) 10:00から	日立市シルバー人材センター／那珂市シルバー人材センター
令和4年11月17日(木) 10:00から	五霞町シルバー人材センター／常総市シルバー人材センター



シルバー会員募集中!



働く意欲にあふれる
60歳以上の方の
ご入会をお待ち
しています!

仕事募集

気軽にお仕事をご依頼ください。

原則として、お仕事を依頼したい市町村のシルバー人材センターに、お申し込みいただけます。公益な団体ですので、収益を目的にいたしません。安心して仕事をお任せいただけます。

お問合せ先

公益社団法人 茨城県シルバー人材センター連合会

TEL.029-244-4622

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館3階

FAX.029-244-4633

又は、お近くのシルバー人材センターまで

シルバー人材センターで得た配分金収入等に対する所得税の取り扱いについて

- 2020年より給与所得控除、基礎控除が変わります。
- 配分金収入は、所得税法上『雑所得』に区分されます。雑所得の金額は、原則として雑所得の総収入金額から必要経費を控除した額です。従って、配分金収入に係る必要経費の額は、55万円以上ある場合、配分金収入から必要経費の全額を控除とします。
- 必要経費の額が55万円に満たない場合は、『租税特別措置法』第27条（家内労働者等の事業所得等の所得計算の特例）の適用により、55万円を上限として控除できます。ただし、収入金額が限度になります。
- 公的年金を受給している会員は、配分金収入とは別に公的年金等控除を行えます。
- 給与収入のある会員は、最低55万円（ただし収入金額を限度とします）の給与所得控除が受けられますが、その場合、配分金収入に係る控除額は55万円から給与所得を控除した残額が限度です。

必要経費の額が55万円未満の場合の例示

【設例】 あるセンター会員（66歳）の年間収入は次のようなものでした。

- ① 配分金収入 52万円（うち交通費等の必要経費10万円）
- ② 給与収入 40万円（労働者派遣事業および職業紹介事業による賃金）
- ③ 公的年金収入 150万円

1 配分金収入及び給与収入に係る所得の控除

(最低保障額) (給与所得控除額) (雑所得(配分金所得)分の最低保障額)
550,000円 - 400,000円 = 150,000円

(最低保障額の残額) (配分金収入) [雑所得(配分金所得)分の特例経費]
150,000円 < 520,000円 = 150,000円 →最低保障額の残額で頭打ち

従って、この場合
520,000円 - 150,000円 = 370,000円が控除後の所得となります。→ **A**

2 公的年金収入に係る雑所得の控除

$1,500,000 \times 100\% - 1,100,000\text{円} = 400,000\text{円}$

割合や控除額については、「公的年金等に係る雑所得の速算表」(税務署にあります。)から算出してください。

従って、この場合、
400,000円が控除後の所得となります。→ **B**

3 基礎控除及び納税額

配分金収入、給与収入、公的年金収入に係る所得控除後の所得合計額

A + **B** = 770,000円

(基礎控除)
770,000円 - 480,000円 = 290,000円(課税所得額)

[課税所得額] [税率] [確定申告による納税額]
290,000円 × 5% = 14,500円

既に源泉徴収された所得税額が納税額を上回る場合は、確定申告で税が還付されます。

なお、電子申請される場合並びに配分金収入、給与収入、公的年金収入以外の収入がある場合の所得控除及びその他の控除については、最寄の税務署にお尋ねください。

会報「県シ連だより」編集会議メンバー

座長	(公社)茨城県シルバー人材センター連合会
編集委員	(公社)水戸市シルバー人材センター
編集委員	(公社)石岡地方広域シルバー人材センター
編集委員	(公社)桜川市シルバー人材センター
編集委員	(公社)神栖市シルバー人材センター
編集委員	(公社)茨城県シルバー人材センター連合会

総務課長	松本 敏明
管理係長	田尻 純子
業務係長	森 昌幸
事務局次長	仁保 直樹
主 査	高群 浩子
主 事	栗原 秀子

公益社団法人 茨城県シルバー人材センター連合会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918

セキショウ・ウェルビーイング福祉会館3階

TEL:029-244-4622 FAX:029-244-4633

ホームページ <http://www.ibaraki-silver.jp>

E-mail ibarakirengo@sjc.ne.jp